

ブライテス

Brightness

ネス

三和グループ社内報[ブライテス] 2021 秋号

株式会社三和サービス

三和道路維持株式会社

株式会社エイチ エム エス

サンワ警備保障株式会社

<http://www.group-sanwa.co.jp>

82

〈年表〉

昭和45年4月	ビル管法(建築物における衛生的環境の確保に関する法律)制定
昭和46年10月	林ビルサービス 創業
昭和48年3月	林ビルサービス株式会社 設立
昭和51年5月	研美社を合併 株式会社三和サービスに社名変更
昭和56年6月	建築物貯水槽清掃業 登録
昭和56年8月	建築物ねずみ昆虫等防除業 登録
昭和60年12月	浄化槽保守点検業 登録
平成6年10月	医療関連サービスマーク 取得
平成11年1月	労働者派遣業 登録
平成16年3月	建築物環境衛生総合管理業 登録
平成18年	指定管理者として指定管理施設の運営スタート
平成29年	PFIに参画
令和3年11月	50期(Next25)

株式会社三和サービス 創立50周年記念事業実行委員会 キックオフ

令和3年9月1日(水)「株式会社三和サービス創立50周年記念事業実行委員会」がキックオフしました。株式会社三和サービスは、令和4年3月3日で創立50周年を迎えるにあたり、記念事業実施を予定しています。委員会メンバーは、委員長 取締役管理本部長 林信美、取締役営業本部長 竹村和修、営業管理部次長 中野克哉、水野恵美子、小川知沙の5名です。どうぞよろしくお願いいたします。



50期を迎える「今」を

新たな出発点とするために、 原点回帰をして考えよう。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆
10月は三和グループの中核である株式会社三和サービスの決算月で「49期」の締めくくり。本年11月からはよいよ「50期」に入ります。節目となる50期を迎える今こそ、考えるべきことは何でしょうか。林正和社長のインタビューをお届けします。

●本年11月、三和サービスは50期を迎えます。全社員会議(裏面参照)で社長がお話されたように、50期という節目こそ考えるべき、「原点回帰」そして「Next(ネクスト)25」について、この社内報でもお伝えしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

社長 はい、よろしくお願ひいたします。ビル管理業に関わる最も基本的な法律「ビル管法」が制定されたのは昭和45年4月。その翌年、昭和46年10月に林信之会長が起業し、当社は「林ビルサービス」の名でスタートしました。前の東京オリビック(昭和39年)の頃から街にビルが建ち始め、経済成長が気に進んだ時代の船出でした。以来、常に情報をキャッチし、それらを仕事へと展開し、まさに時代に即して成長してきました。

振り返ると、掃く・拭くという清掃の基本から始めて、建物が大きくなるにつれ、設備の管理、警備、夜間の業務、電話交換受付と、建物に関する業務が次々と増えました。さらに平成18年からは「指定管理者制度」の指定管理者として、公の施設の管理にも果敢に取り組み、指定管理物件を増やし、今では当社の大きな軸になっています。また平成29年には「PFI」※1に参画し、広域住民が利用する公の施設に関する長期運営に携わるようになるなど、時代の波に乗ってきた感があります。

この50年の経緯をすべて知っているのは林会長のみですが、時代に社員が懸命に仕事をしたからこそ、今があります。決して現在の社員だけで成り立っている企業ではなく、先輩諸氏に感謝しなくてはなりません。

●50年企業という自覚が必要ですね。

社長 その通りです。先輩諸氏への感謝を胸に、半世紀の歴史を持つという信頼とブランドを有効に使っていききたい。私も含め、皆さん一人ひとりが「三和の〇〇です」と三和の名を冠して自分を名乗ることの重みを自覚し、50年の積み上げ、信頼や信用が含まれ



ている「三和の〇〇」という気持ちで行動すべきです。

50期という大きな節目を迎えた今、皆さんと共に次の25年、すなわち「Next25」を考えていきたいと思っています。会社というのは社員の生活を守ることに、社会の公器であることが使命です。入社したばかりの新人はもちろん、幼い子どものいる若い社員の人生を考えると、何が何でもこれから先25年、会社としてどうあるべきかを考えなくてはなりません。

●Next25とはいいい響きですね！未来を考えるにはどうしたらよいでしょうか。

社長 「原点回帰」をすることが必要と考えています。原点回帰というのは50年前に戻るという意味ではありません。私たちがいる「今」を出発点とするために、原点回帰をして考える。一歩立ち止まって原点を見つめたときに、取捨選択も見えてくるはず。変えなくてはいけないこと、変えてはいけないことをあらためて共に考えていきたいと思います。

●原点を見て現在を知ることが次の25年の入り口ですね。

社長 変えなくてはいけないことは、サービスに直結する技術面やシステム面。より質の高いサービスを実現するための更新や変革は当然のことですね。その一方で、変えてはならないことがあります。それは社是にある会社の基本理念「美しく快適で安全な空間を創りだし提供すること」であり、お客様の声を聴く心。お客様から

の声には困りごとや改善したいことがあります。たとえクレームであってもヒントがたくさん詰まっているのです。

半世紀という年月、これまでどのようにして仕事を作り出してきたかを考えると、このお客様の声を聞くという姿勢、法律なども含めて時代の流れに乗るといいう行動力が、当社の基本となっていることがよくわかります。

●これからの時代も頑張りたいです！

社長 コロナ禍の今だけでなく、これまでも苦難の時があり、なかでもリーマンショックの波はかなり大変でした。でもそれを何とか乗り越えられたという事実は支えの一つになっています。さまざまな仕事に取り組んできた経験値を持っているという強みも感じています。

会長が起業した50年前は、何もなかったところから作り出していくパワーがあり、何もかもある現在の環境とは大きく違います。でも社名にあるように、我々の本質はサービス業。お客様に喜んでいただく、感動していただくほどの仕事をして、その評判や評価が次の仕事を呼び込むというのを肝に銘じたいと思います。

原点回帰とは、何度も言いますが、それは逆行するのではなく、前向きに進めていくため。惰性で過ごすのではなく、考え続けるため。大きな節目となる50期の二年は、次の25年「Next25」を頑張るための一年にしていきたいです。

※1 Private Finance Initiative: プライベート・ファイナンス・イニシアティブ。公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力および技術的能力を活用して行う手法。





SANWA REPORT
令和3年8月10日(火)開催

全社員会議

50期を迎えるにあたって

三和サービス / 林 正和 社長

49期の売上内訳を説明し、今期の見通しを示されました。昭和45年「ビル管法」施行後、昭和46年10月に林ビルサービスを創業し、三和サービスは令和3年11月で50期となります。次の25年(Next25)を見据えて経営する方針を示されました。

● Next25 とは

同じことの継続だけでは、会社は存続しません。私たちの仕事はサービス業であり、私たちのサービス業は、人と労働力の提供によりお客様に感動を与え喜んでいただくことです。今までお客様の声を聴き、時代の流れに乗り仕事を行ってきました。次の25年(Next25)を考えていかなくてはなりません。



● Next25 を見据えて

原点回帰してください。原点とは物事のはじまりや基、回帰とは一回り(いろいろな経験を)して元のところへ戻ることです。原点回帰は、50年前に戻るのではなく、今までの考え方を踏襲して新たなものにチャレンジして行かなくてはなりません。「サービスに直結する技術面やシステム面」は進化していかなくてはなりません。「会社の基本理念、お客様の声を聴く心」は、変えてはいけません。そして三和の社員であるという、責任と自覚と誇りを持って仕事をするということです。

Next25・原点回帰

- ① サービスに直結する技術面やシステム面を最新のものに。
- ② 会社の基本理念を理解し、お客様の声を聴く心(耳)を持つ。
- ③ 三和の社員である。

Next25・原点回帰を、一人ひとりが、それぞれの立場から何をすればよいか考えて行動してほしい。

特集の
社長インタビューも
ぜひ一読を!



サンワのWa!

作/三宅よしこ No.11

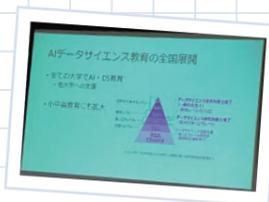


DXとデータサイエンス

令和3年8月23日(月)第1回「DXデータとサイエンス」セミナーが、三和グループで開催されました。講師は、滋賀大学データサイエンス学系 齋藤邦彦教授。

参加人数は13名、デジタル化やDX、クラウドサービスの利用、自動化の手法、アンケートの自動集計などを学びました。

三和グループは、DX(デジタルトランスフォーメーション)とSDGsに取組んでまいります。グループ従業員の皆さまも、他人事と思わず、自分事と捉えて出来ることから行動に移してください。



DXの豆知識

今さらだけど、キャッシュレス決済ってなに??



ペイペイなど、巷では当たり前聞くキャッシュレス決済。キャッシュレス決済とは「現金を使わずに支払いを済ませる方法」のこと。日本でも政府がキャッシュレス決済を推進していることもあり、最近では急速に普及しています。だけど、まだ使ったことがない仕組みがよくわからない!という方のために今回はスマートフォン決済(スマホ決済)について簡単に説明します。

スマホ決済の手順

①スマートフォンに決済アプリをダウンロード

【よく使われる決済アプリ】

- ・ペイペイ
- ・D払い
- ・auPAY
- ・楽天ペイ など



②決済アプリにお金をチャージ

【銀行口座または現金】

- ・銀行口座
- ・コンビニ
- ・クレジットカード など



③お店での支払い。

【決済アプリの決済画面を表示】

- ・QRコード
- ・バーコード



★キャッシュレス決済のメリット

- 現金の持ち合わせがなくても使える。また小銭を探す手間が無いのでスピーディーに精算ができる。
- 支払い履歴が残るので、どれだけ使ったが一目瞭然と管理がしやすい。
- 各社でキャンペーンやクーポンがある。

私もできる! SDGs

食品ロス～食べ物に、もったいないをもういちど～

最近テレビ等でよく耳にするSDGs(エスディージーズ)。日本語にすると「持続可能な開発目標」となります。SDGsには17の開発目標がありますが、今回は『目標12. つくる責任 つかう責任』に関わる食品ロスについて紹介します。

現在世界では毎年40億トンの食料が生産されていますが、その約3分の1にあたる13億トンが本来食べられるのに食品ロスとして廃棄されています。

生産や輸入が活発な先進国にばかりに食料が集中し、そこであまった食料が廃棄されてしまうため食料不足に悩む国との間で大きな格差が生じているのです。

日本では食べられるのに捨てられた食品ロスは600万トンになり、国民1人当たり毎日お茶碗一杯分のご飯を捨てていることとなります。

このまま食品ロスを放置すると、食料が世界の国々に行きわたらない状態が続き、更なる食料不足や貧困を助長してしまうことになりかねません。

このような実態を知ると食品ロスを減らすためには一人ひとりがこれまでの生活習慣を見直し変えていくことがSDGsへの貢献に繋がるとわかります。

食品ロスを減らすために自分たちにできることを始めてみましょう!

家庭でできる食品ロスの取り組み

- 買いすぎない
事前に欲しい商品をメモして、必要な物だけ買う商品選びを。
- 作りすぎない
料理は食べられる量を考えて作り、残った場合は他の料理にリメイクするのも手。
- 手前取り
賞味期限の長いものを選びがちですが、すぐ使うのなら期限の早い商品を選ぶ。



● 2020年 最優秀作品賞 ●
労働安全衛生標語
指差し声出し危険予知
無事故で笑顔の快適職場

◆◆◆ 編集室から ◆◆◆

今回は、盛りだくさんの社内報となりました。みなさんSDGsご存じでしたか?今回はフードロスについて書いてみました。今日から出来るのが有ります。美しい地球のために未来の人類のために小さなことから始めましょう!今後もSDGsについては社内報で分かりやすく書きます。ニュース等でSDGsに興味をもってください。

それから、来年3月株式会社三和サービスは創立50周年を迎えます。社内報に50年の歩みの特集する予定です。楽しみにしてくださいね。

三和グループ社内報 2021年 秋号(令和3年10月25日発行)
発行所 株式会社三和サービス
本社 / 〒500-8286 岐阜市西郷1丁目52番地
電話 / 058-273-5653(代)

Brightness

